

〔目的〕住宅の大気浮遊粉塵に対する調整機能は環境の気象要素や住宅構造に影響されることが考えられる。そこで、粉塵の質量濃度の測定と同時に、環境気象要素（温度・湿度・風向・風速）の測定を行ない、特に粉塵濃度に関係が深いと考えられる風向・風速についてはコンピュータを用いた自動測定を行なって、それらの影響を明らかにする。また、住宅構造の遮断効果に及ぼす影響を、構造の異なる住宅について比較検討する。

〔方法〕風速は熱線風速計のアナログ出力を、風向は市販のハンディタイプの風向計に自作のセンサーを付加してその出力をそれぞれパソコン（FM-8）に繋ぎ、それらのデータをカセットテープに記録した。粉塵の質量濃度の測定にはピエゾバランス粉塵計、温湿度の記録には自記温湿度計を用いた。実験住宅は木造瓦葺2階建住宅（泉佐野市）と鉄筋コンクリート造中層集合住宅（京都市）を利用した。

〔結果〕住宅内の粉塵濃度には顕著な日変化が観測された。又、室内の $2\mu\text{m}$ 以下の粉塵の濃度は風速と強い相関を示した。その一例を右に示す。又、屋外の濃度は風向により異なるが、遮断係数に及ぼす風向の影響は現在解析中である。住宅構造による係数の違いは余り認められなかった。

